



# コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド Business PC

製品番号 : 361206-293

**2005年5月**

このガイドでは、コンピュータ セットアップの使用方法について説明します。このツールは、新しいハードウェアを取り付けたときにコンピュータのデフォルト設定を再構成および変更する場合や、メンテナンスを行う場合に使用します。

© Copyright 2004, 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、Windows、およびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Companyの書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

以下の記号は、本文中で安全上重要な注意事項を示します。



**警告：**その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します。

---



**注意：**その指示に従わないと、装置の損傷やデータの損失を引き起こす恐れがあるという注意事項を表します。

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ ガイド  
Business PC

初版 2004年4月  
改訂第1版 2004年9月  
改訂第2版 2005年5月  
製品番号：361206-293

日本ヒューレット・パッカード株式会社

---

# 目次

## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ	1
コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの起動	3
ファイル (File)	4
システム情報 (System Information)	4
バージョン情報 (About)	4
日付と時刻 (Set Time and Date)	4
フラッシュ システムROM (Flash System ROM) (一部のモデルのみ)	4
複製セットアップ (Replicated Setup)	4
デフォルト値の変更 (Default Setup)	5
デフォルト値に設定して終了 (Apply Defaults and Exit)	5
変更を保存しないで終了 (Ignore Changes and Exit)	5
変更を保存して終了 (Save Changes and Exit)	5
ストレージ (Storage)	5
デバイス構成 (Device Configuration)	5
ストレージ オプション (Storage Options)	8
DPSセルフテスト (DPS Self-Test)	10
起動順序 (Boot Order)	10
セキュリティ (Security)	11
スマート カード オプション (Smart Card Options)	11
セットアップ パスワード (Setup Password)	11
電源投入時パスワード (Power-On Password)	11
パスワード オプション (Password Options)	11
スマート カバー (Smart Cover)	12
内蔵セキュリティ (Embedded Security)	12
デバイス セキュリティ (Device Security)	13
ネットワーク サービス ブート (Network Service Boot)	13
システムID (System ID)	14
ドライブロック セキュリティ (DriveLock Security) (一部のモデルのみ)	14
OSセキュリティ (OS Security) (一部のモデルのみ)	15
データ実行防止 (Data Execution Prevention) (一部のモデルのみ)	15
マスタ ブート レコードセキュリティ (Master Boot Record Security)	
(一部のモデルのみ)	16
マスタ ブート レコードの保存 (Save Master Boot Record) (一部のモデルのみ)	16
マスタ ブート レコードの復元 (Restore Master Boot Record) (一部のモデルのみ)	17

---

電源 (Power)	18
OS電源管理 (OS Power Management)	18
ハードウェア パワー マネージメント (Hardware Power Management)	18
温度 (Thermal)	18
カスタム* (Advanced)	19
電源投入時オプション (Power-On Options)	19
メモリ テストの実行 (Execute Memory Test) (一部のモデルのみ)	21
BIOS電源投入 (BIOS Power-On)	21
オンボード デバイス (Onboard Devices)	22
PCIデバイス (PCI Devices)	22
PCI VGA コンフィグレーション (PCI VGA Configuration)	22
バス オプション (Bus Options)	22
デバイス オプション (Device Options)	23
構成の設定値の回復	25

---

# コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティは、以下のような操作を行う場合に使用します。

- コンピュータの工場出荷時の設定の変更
- コンピュータ (リアルタイム クロック) の日付 (Date) と時刻 (Time) の設定
- システム構成 (プロセッサ、グラフィックス (ビデオ) 、メモリ、オーディオ、記憶装置、通信ポート、入力装置など) の表示、設定の変更、または確認
- 起動可能なデバイスの起動順序 (Boot Order) の変更。起動可能なデバイスとして、ハードディスク ドライブ、ディスクレット ドライブ、オプティカル ドライブ、USBフラッシュ メディア デバイスなどがあります。
- クイック ブート (Quick Boot) の有効化。クイック ブートでは、コンピュータをすばやく起動できますが、フルブートで実行される診断テストの一部が省略されます。以下のように設定できます。
  - 常にクイック ブート (デフォルト)
  - 定期的にフルブート (毎日~30日まで指定可)
  - 常にフルブート
- POST (Power-On Self Test) メッセージ (POST Message) の有効/無効の選択による、メッセージの表示状態の変更。非表示モードでは、メモリ カウント、製品名、エラーでないその他のテキスト メッセージなど、ほとんどのPOSTメッセージは表示されません。POSTエラーが発生した場合には、選択した設定に関係なくエラー メッセージが表示されます。POST 実行中に非表示モードから表示モードに切り替えるには、**[F1]**~**[F12]** キー以外の任意のキーを押してください。

- オーナーシップ タグ (Ownership Tag) の設定。オーナーシップ タグを設定しておく、システムを起動または再起動するたびにコンピュータの所有者に関する情報が画面上に表示されます。
- 会社によって割り当てられたアセット タグ (Asset Tag) または資産ID番号の設定
- システムの起動時だけでなく、再起動時の電源投入時パスワード入力画面の有効化
- セットアップ パスワード (Setup Password) の設定。セットアップ パスワードは、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ、およびこのガイドで説明する設定にアクセスする場合に使用します。
- シリアルポート、USBポート、パラレルポート、オーディオ、内蔵NICなどの内蔵I/O機能の使用禁止/許可の設定
- マスタ ブート レコード (MBR) セキュリティ (Master Boot Record Security) の有効/無効の設定 (一部のモデルのみ)
- リムーバブル メディアからの起動 (Removable Media Boot) の有効/無効の設定
- レガシー ディスケットの書き込み (Legacy Diskette Write) の禁止/許可の設定 (ハードウェアでサポートされている場合)
- POSTで検出されて自動修復できなかったシステム構成のエラーの解決
- リプリケート セットアップ機能の利用。コンピュータの設定情報をディスクレットに保存し、その情報を使って複数のコンピュータを同じ設定にすることができます。
- 特定のATAハードディスク ドライブのセルフテストの実行 (ドライブでサポートされている場合)
- ドライブロック セキュリティ (DriveLock Security) の有効/無効の設定 (ドライブでサポートされている場合)

## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの起動

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティには、コンピュータの電源を入れるか再起動することでのみアクセスできます。コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを起動するには、以下の手順で操作します。

1. コンピュータの電源を入れるか、再起動します。Microsoft® Windows® をお使いの場合、[スタート]→[終了オプション] (または[シャットダウン]) →[コンピュータを再起動する] (または[再起動する]) の順に選択します。
2. コンピュータが起動してモニタ ランプが緑色に点灯したらすぐに **[F10]** キーを押し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを実行します。必要であれば、**[Enter]** キーを押すと、タイトル画面をスキップできます。



適切なタイミングで **[F10]** キーを押せなかった場合は、コンピュータを再起動して、モニタ ランプが緑色に点灯した時にもう一度 **[F10]** キーを押します。

3. 使用言語をリストから選択し、**[Enter]** キーを押します。
4. **[コンピュータ セットアップ ユーティリティ]** のメイン画面から5つのメニュー (**[ファイル]** (File)、**[ストレージ]** (Storage)、**[セキュリティ]** (Security)、**[電源]** (Power)、**[カスタム]** (Advanced)) を選択できます。
5. 左右の矢印キーでメニューを選択し、上下の矢印キーで項目を選んで **[Enter]** キーを押します。コンピュータ セットアップ ユーティリティのメニューに戻るには、**[Esc]** キーを押します。
6. 変更した設定を有効にして保存するには、**[ファイル]** → **[変更を保存して終了]** (Save Changes and Exit) の順に選択します。
  - 変更した設定を破棄したい場合は、**[変更を保存しないで終了]** (Ignore Changes and Exit) を選択します。
  - 工場出荷時の設定値または以前保存したデフォルトの設定値 (一部のモデルのみ) に戻す場合は、**[デフォルト値に設定して終了]** (Set Defaults and Exit) を選択します。



**注意:** CMOSの損傷を防ぐため、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでの変更がBIOSに保存されている最中に、コンピュータの電源を切らないでください。**[F10=Setup]** 画面の終了後にも、安全にコンピュータの電源を切ることができます。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ

メニュー	項目	説明
ファイル (File)	システム情報 (System Information)	次の項目を表示します <ul style="list-style-type: none"> <li>製品名 (Product Name)</li> <li>SKU番号 (SKU Number) (一部のモデルのみ)</li> <li>プロセッサ タイプ/速度/ステッピング (Processor Type/Speed/Stepping)</li> <li>キャッシュ サイズ (Cache Size) (L1/L2) : デュアル コア プロセッサの場合は、キャッシュ サイズのリストが2つ表示されます</li> <li>取り付けられているメモリのサイズ/処理速度、チャンネルの数 (シングルまたはデュアル) (必要に応じて)</li> <li>内蔵の有効なNIC用の内蔵MACアドレス (Integrated MAC) (必要に応じて)</li> <li>システムBIOS (System BIOS) (システム ファミリの名前とバージョン)</li> <li>本体シリアル番号 (Chassis Serial Number)</li> <li>アセット タグ (Asset Tracking Number)</li> </ul>
	バージョン情報 (About)	著作権情報を表示します
	日付と時刻 (Set Time and Date)	システムの時刻と日付を設定できます
	フラッシュ システムROM (Flash System ROM) (一部のモデルのみ)	新しいBIOSを含むドライブを選択できます
	複製セットアップ (Replicated Setup)	<p><b>リムーバブル メディアに保存 (Save to Removable Media)</b></p> <p>フォーマットされた1.44 MBディスク、USBメモリ、またはディスクと同等のデバイス (ディスク ドライブをエミュレート するよう 設定された記憶装置)に、CMOSを含めたコンピュータの設定情報を保存します</p> <p><b>リムーバブル メディアから復元 (Restore from Removable Media)</b></p> <p>ディスク、USBメモリ、またはディスクと同等のデバイスに保存されているシステム構成を復元します</p>




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。



---

**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**



---

メニュー	項目	説明
ファイル (File) (続き)	デフォルト値の変更 (Default Setup)	<p>現在の設定をデフォルトとして保存 <b>(Save Current Settings as Default)</b></p> <p>現在のシステム構成の設定をデフォルトとして保存します</p> <p>工場出荷時の設定をデフォルトとして復元 <b>(Restore Factory Settings as Default)</b></p> <p>出荷時のシステム構成の設定をデフォルトとして復元します</p>
	デフォルト値に設定して終了 (Apply Defaults and Exit)	現在選択されているデフォルト設定を適用し、すべてのパスワード設定を消去します
	変更を保存しないで終了 (Ignore Changes and Exit)	変更した設定値を破棄し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを終了します
	変更を保存して終了 (Save Changes and Exit)	変更した設定値やデフォルト設定を保存し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを終了します
ストレージ (Storage)	デバイス構成 (Device Configuration)	<p>取り付けられているストレージ デバイスのうち、BIOSで制御されるものをすべて表示します</p> <p>デバイスを選択すると、そのデバイスに関する詳細情報およびオプションが表示されます。次のような項目が表示されます</p> <p><b>ディスクタイプ (Diskette Type)</b></p> <p>ディスク ドライブで使用可能な最大容量のメディアのタイプを示します</p> <p>レガシー ディスク ドライブ</p> <p>オプションには、3.5 インチ 1.44 MB、および 5.25 インチ 1.2 MBがあります</p> <p><b>ドライブ エミュレーション (Drive Emulation)</b></p> <p>特定のストレージ デバイスのドライブ エミュレーション タイプを選択します (たとえば、Zip ドライブは、ディスク エミュレーションを選択することで起動可能になります)</p>
<p> コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)



メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	デバイス構成 (Device Configuration) (続き)	<p><b>ドライブのタイプ</b>    <b>エミュレーション オプション</b></p> <p>ATAPI Zipドライブ (ATAPI Zip drive)    なし (None) (その他の各種ドライブとして処理) ディスク (Diskette) (ディスク ケット ドライブとして処理)</p> <p>ATAハードディスク (ATA Hard Disk)    なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスク (Disk) (ハードディス ク ドライブとして処理)</p> <p>レガシー ディス ケット (Legacy Diskette)    なし</p> <p>CD-ROM    なし</p> <p>ATAPI LS-120    なし (その他の各種ドライブとして処理) ディスク (ディスク ドラ イブとして処理)</p> <p><b>マルチセクタ転送 (Multisector Transfers)</b> (ATAディスクのみ) マルチセクタのPIO操作ごとに転送されるセクタ数を指定します。オプションには (デバイスの機能により)、無効 (Disabled)、8、および16があります</p> <p><b>転送モード (Transfer Mode)</b> (IDEデバイスのみ) アクティブなデータ転送モードを指定します。オプションには (デバイスの機能により)、PIO 0、Max PIO、Enhanced DMA、Ultra DMA 0、およびMax UDMAがあります</p>

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。


---

**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**


---



メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	デバイス構成 (Device Configuration) (続き)	<p><b>変換モード (Translation Mode)</b> (ATAディスクのみ) デバイスで使用する変換モードを選択します。これによりBIOSは、他のシステム上のパーティション分割およびフォーマットされたディスクにアクセスできます。これは、旧バージョンのUNIX (SCO UNIXバージョン3.2など) のユーザにとって必要な場合があります。オプションには、自動 (Automatic)、ビットシフト (Bit-Shift)、LBA支援 (LBA Assisted)、ユーザ (User)、および「オフ」 (Off) があります</p> <p> <b>注意:</b> 通常は、BIOSによって自動的に選択された変換モードは変更しないでください。選択された変換モードが、ディスクをパーティション分割およびフォーマットしたときにアクティブであった変換モードと互換性がないと、ディスク上のデータにアクセスできなくなります</p> <p><b>IDE/シリアルATA (Default Values IDE/SATA)</b> マルチセクタ転送 (Multisector Transfers)、転送モード (Transfer Mode)、およびATAデバイス用変換モードのデフォルト値を指定します</p> <p><b>変換パラメータ (Translation Parameter)</b> (ATAディスクのみ)</p> <p> この機能は変換モード (Translation Mode) にユーザ (User) が選択されているときにのみ表示されます</p> <p>パラメータ (論理シリンダ (Logical Cylinders)、ヘッド (Heads)、およびトラック当たりのセクタ数 (Sectors Per Track)) を指定できます。BIOSはこれを使用して (オペレーティングシステムやアプリケーションからの) ディスク/〇要求を、ハードディスクドライブで受け入れ可能な様式に変換します。論理シリンダは1024を超えることはできません。ヘッド数は256を超えることはできません。トラック当たりのセクタ数は63を超えることはできません。これらのフィールドは、ドライブの変換モードが「ユーザ」に設定されているときにのみ、表示および変更できます</p>

---

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	ストレージ オプション (Storage Options)	<p><b>リムーバブル メディアの起動 (Removable Media Boot)</b></p> <p>リムーバブル メディアからシステムを起動する機能の有効 (Enable) / 無効 (Disable) を設定します</p> <hr/> <p><b>低速ディスクの書き込み (Legacy Diskette Write)</b></p> <p>レガシー ディスクにデータを書き込む機能の有効/無効を設定します</p> <p> レガシー ディスク書き込みの変更を行った後でコンピュータは再起動しますが、その後、変更を有効にするために、手でコンピュータの電源を切ってから電源を入れてください</p> <hr/> <p><b>BIOS ATA DMA転送 (BIOS DMA Data Transfers)</b></p> <p>BIOSのディスク/O要求の処理方法を調整できます。[有効] (Enable) が選択されているときは、BIOSはATAディスクの読み込み/書き込み要求をDMAデータ転送で処理します。[無効] (Disable) が選択されているときは、BIOSはATAディスクの読み込み/書き込み要求をPIOデータ転送で処理します</p>
	<p>コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>	

---

**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**


---



メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	ストレージ オプション (Storage Options) (続き)	<p><b>SATA構成 (SATA Emulation)</b></p> <p>SATAコントローラおよびデバイスをオペレーティングシステムからアクセスする方法を選択できます</p> <p>デフォルトのオプションは[Separate IDE Controller] (個別のIDEコントローラ) です。このモードでは、最大4つのSATAデバイスと2つのPATAデバイスにアクセスできます。SATAおよびPATAのコントローラは、個別の2つのIDEコントローラとして表示されます。このオプションは、Microsoft Windows 2000およびWindows XPで使用します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SATA 0は[SATA Primary Device 0] (SATAプライマリデバイス0) として表示されます</li> <li>• SATA 1 (デバイスがある場合) は[SATA Secondary Device 0] (SATAセカンダリ デバイス0) として表示されます</li> <li>• SATA 2 (デバイスがある場合) は[SATA Primary Device 1] (SATAプライマリ デバイス1) として表示されます</li> <li>• SATA 3 (デバイスがある場合) は[SATA Secondary Device 1] (SATAセカンダリ デバイス1) として表示されます</li> </ul> <p>もう一方のオプションは[Combined IDE Controller] (複合IDEコントローラ) です。このモードでは、最大2つのPATAデバイスと2つのSATAデバイスにアクセスできます。SATAおよびPATAのコントローラは、1つに組み合わせられたIDE コントローラとして表示されます。このオプションは、Microsoft Windows 98以前のオペレーティングシステムで使用します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SATA 1は[PATA Primary Device 0] (PATAプライマリデバイス0) に置き換えられます</li> <li>• SATA 3は[PATA Primary Device 1] (PATAプライマリデバイス1) に置き換えられます</li> </ul> <hr/> <p><b>IDEコントローラ (IDE Controller)</b></p> <p>プライマリIDEコントローラを有効/無効に設定します。この機能は一部のモデルでのみサポートされます</p>




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。



---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)



メニュー	項目	説明
ストレージ (Storage) (続き)	ストレージ オプション (Storage Options) (続き)	<p>プライマリ シリアルATAコントローラ <b>(Primary SATA Controller)</b></p> <p>プライマリSATAコントローラを有効/無効に設定します</p>
		<p>セカンダリ シリアルATAコントローラ <b>(Secondary SATA Controller)</b></p> <p>セカンダリSATAコントローラを有効/無効に設定します。この機能は一部のモデルでのみサポートされます</p>
	DPSセルフテスト (DPS Self-Test)	<p>DPS (Drive Protection System) セルフテスト機能をもつATAハードディスク ドライブのセルフテストを実行します</p> <p> この項目は、1台以上のDPSセルフテスト機能を持つハードディスクドライブがシステムに接続されている場合にのみ表示されます</p>
	起動順序 (Boot Order)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続されたデバイス (USBメモリ、ディスク ドライブ、ハードディスクドライブ、オプティカルドライブ、ネットワーク インタフェース カードなど) に起動可能なオペレーティング システムのイメージがあるかどうかをチェックする順序を指定します。一覧上の各デバイスは、起動可能オペレーティング システムのソースとして個別にチェック対象から除外したり、チェック対象に含めたりできます</li> <li>接続されたハードディスクドライブの起動順序を指定します。最初のハードディスクドライブは起動順序が優先され、Cドライブとして認識されます (他にデバイスが接続されている場合)</li> </ul> <p> MS-DOSのドライブ名の割り当ては、MS-DOS以外のオペレーティング システムが起動された後は、適用されない場合があります</p> <p><b>一時的に優先される起動順序へのショートカット</b></p> <p>起動順序で指定したデフォルトのデバイス以外のデバイスから一度だけ起動するには、コンピュータを再起動し、モニター ランプが緑色に点灯している間に[F9]キーを押します。POSTが完了すると、起動可能デバイスの一覧が表示されます。矢印キーを使用して目的の起動デバイスを選択し、[Enter]キーを押すと、デフォルト以外の選択したデバイスから、コンピュータが一度だけ起動されます</p>

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security)	スマート カード オプション (Smart Card Options)	電源投入時パスワード (Power-On Password) の代わりにスマート カードを使用する設定を有効/無効にします
	セットアップ パスワード (Setup Password)	<p>セットアップ (管理者) パスワードを設定して有効にします</p> <p> セットアップ パスワードを設定すると、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの設定を変更したり、ROMをフラッシュしたり、Windows環境で特定のプラグ アンド プレイ設定を変更したりする場合にセットアップ パスワードが必要になります</p> <p>詳しくは、Documentation and Diagnostics CD (ドキュメンテーションおよび診断用CD) に収録されている『トラブルシューティング ガイド』を参照してください</p>
	電源投入時パスワード (Power-On Password)	<p>電源投入時パスワードを設定して有効にします</p> <p>詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『トラブルシューティング ガイド』を参照してください</p>
	パスワード オプション (Password Options) (電源投入時パスワードまたはセットアップ パスワードが設定されている場合にのみ表示されます)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レガシー リソースのロック(セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます)</li> <li>ネットワーク サーバ モードを有効/無効に設定します (セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます)</li> <li>ウォーム ブート (<b>[Ctrl]+[Alt]+[Delete]</b>) にパスワードが必要かどうかを指定します (セットアップ パスワードを設定した場合に表示されます)</li> </ul> <p>詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
<p> コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	スマート カバー (Smart Cover)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カバー ロック (Cover Lock) のロック (Lock) /アンロック (Unlock) の設定</li> <li>カバー リムーバル センサの無効 (Disable) /ユーザーに通知 (Notify User) /セットアップ パスワードの設定</li> </ul> <p> [ユーザーに通知]を設定すると、カバーが取り外されたことをセンサが検知したときにユーザーに通知されます。セットアップ パスワードは、カバーが取り外されたことをセンサが検知した場合、コンピュータを起動する際にセットアップ パスワードの入力を要求します</p> <p>一部のモデルでのみサポートされます。詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	内蔵セキュリティ (Embedded Security)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵セキュリティ デバイスの有効 (Enable) /無効 (Disable)</li> <li>デバイスの出荷時設定へのリセット</li> <li>起動時の認証サポートの有効/無効(一部のモデルのみ)</li> <li>認証資格情報のリセット (一部のモデルのみ)</li> </ul> <p>一部のモデルでのみサポートされます。詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。	




---

**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**


---



メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	デバイス セキュリティ (Device Security)	<p>次のデバイスに関する、デバイス有効 (Device Available) / デバイス無効 (Device Hidden) の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリアル ポート (Serial Port)</li> <li>パラレル ポート (Parallel Port)</li> <li>前面のUSBポート (Front USB Port)</li> <li>システムのオーディオ セキュリティ (Audio Security)</li> <li>内蔵スピーカ (Internal Speaker) (一部のモデルのみ) 外付けスピーカの設定には影響しません</li> <li>ネットワーク コントローラ (Network Controller) (一部のモデルのみ)</li> <li>マルチベイ デバイス (Multibay Devices) (一部のモデルのみ)</li> <li>SMBusコントローラ (SMBus Controller) (一部のモデルのみ)</li> <li>SCSIコントローラ (SCSI Controller) (一部のモデルのみ)</li> <li>内蔵セキュリティ デバイス (Embedded security device) (一部のモデルのみ)</li> </ul>
	ネットワーク サービス ブート (Network Service Boot)	<p>ネットワーク サーバにインストールされたオペレーティング システムからコンピュータを起動する機能の有効 (Enable) / 無効 (Disable) の設定 (NICモデルのみで使用でき、ネットワーク コントローラがPCIバス上に存在するか、システム ボードに組み込まれている必要があります)</p>

---





 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

---




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	システムID (System ID)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アセット タグ (Asset Tag, 18バイトのID) および オーナーシップ タグ (Ownership Tag, POST実行中に表示される80バイトのID) の入力</li> </ul> <p>詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本体シリアル番号 (Chassis Serial Number) または UUID (Universal Unique Identifier) の入力</li> </ul> <p>UUIDは現在の本体シリアル番号が無効の場合のみ更新できます (通常これらの識別 (ID) 番号は工場出荷時に設定され、そのシステムを特定するために使用されます)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• キーボード (Keyboard Locale) の設定</li> </ul> <p>英語用やドイツ語用などをシステムIDエントリに対して設定します</p>
	ドライブロック セキュリティ (DriveLock Security) (一部のモデルのみ)	<p>ハードディスク ドライブにマスタ パスワードまたは ユーザ パスワードを割り当てたり、パスワードを変更したりします。この機能が有効の場合は、POST実行中にどちらかのDriveLockパスワードを入力するよう求められます。どちらのパスワードも正常に入力されなかった場合は、次のコールド ブート シーケンスの間にどちらかのパスワードが入力されるまで、ハードディスク ドライブにはアクセスできません</p> <p> この項目は、DriveLock機能をサポートする1台以上のハードディスク ドライブがシステムに接続されている場合のみ表示されます</p> <p>詳しくは、Documentation and Diagnostics CDに収録されている『デスクトップ マネジメントについて』を参照してください</p>
	<p>コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>	

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	OSセキュリティ (OS Security) (一部のモデルのみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ実行防止 (Data Execution Prevention) (一部のモデルのみ) : 有効 (Enable) / 無効 (Disable) に設定します OSのセキュリティの侵害を防止できます</li> <li> この項目は、使用中のプロセッサおよびオペレーティング システムがデータ実行防止モードに対応している場合にのみ有効になります</li> <li>Intel仮想化技術 (Intel Virtualization Technology) (一部のモデルのみ) : 有効/無効に設定します この設定を変更するには、コンピュータの電源を切ってから再び電源を入れる必要があります</li> <li> この項目は、使用中のプロセッサおよびオペレーティング システムがデータ実行防止モードに対応している場合にのみ有効になります</li> </ul>
	データ実行防止 (Data Execution Prevention) (一部のモデルのみ)	<p>有効 (Enable) / 無効 (Disable) に設定します OSのセキュリティの侵害を防止できます</p> <p> この項目は、使用中のプロセッサおよびオペレーティング システムがデータ実行防止モードに対応している場合にのみ有効になります</p>
<p> コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	マスタ ブート レコード セキュリティ (Master Boot Record Security) (一部のモデルのみ)	<p>マスタ ブート レコード (MBR) セキュリティを有効 (Enable) /無効 (Disable) に設定します</p> <p>有効に設定すると、BIOSは、現在の起動可能ディスクの MBRへの書き込み要求をすべて拒否します。コンピュータの電源を入れるか再起動するたびに、BIOSは現在の起動可能ディスクのMBRと前回保存したMBRとを比較します。変更が検出された場合、現在の起動可能ディスクのMBRを保存するか、前回保存したMBRを復元するか、またはMBRセキュリティを無効にすることができます。セットアップ パスワードが設定されている場合は、セットアップ パスワードを入力する必要があります</p> <p> 現在の起動可能ディスクのフォーマットやパーティションを意図的に変更する際は、MBRセキュリティを無効に設定します。一部のディスク ユーティリティ (FDISKやFORMATなど) はMBRを更新しようとします</p> <p>MBRセキュリティが有効に設定されたままBIOSによってディスク アクセスの処理が行われると、MBRへの書き込み要求は拒否され、ユーティリティはエラーを表示します</p> <p>またMBRセキュリティが有効に設定されたままオペレーティング システムによってディスク アクセスの処理が行われると、次の再起動時にBIOSによってMBRの変更が検出され、MBRセキュリティの警告メッセージが表示されます</p>
	マスタ ブート レコードの 保存 (Save Master Boot Record) (一部のモデルのみ)	<p>現在の起動可能ディスクのマスタ ブート レコードのバックアップ コピーを保存します</p> <p> MBRセキュリティが有効の場合にのみ表示されます</p>
<p> コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

---



**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**


---

メニュー	項目	説明
セキュリティ (Security) (続き)	マスタ ブート レコードの 復元 (Restore Master Boot Record) (一部のモデルのみ)	<p>マスタ ブート レコードのバックアップを現在の起動可能ディスクに復元します</p> <p> 次の条件がすべて満たされている場合にのみ表示されます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• MBRセキュリティが有効に設定されている</li> <li>• 以前にMBRのバックアップ コピーが保存されている</li> <li>• 現在の起動可能ディスクが、MBRのバックアップ コピーを保存したときのディスクと同じである</li> </ul> <p> <b>注意：</b>通常は、ディスク ユーティリティやオペレーティング システムから MBR が変更された後に、以前保存しておいた MBR のバックアップを復元すると、ディスク上のデータにアクセスできなくなる可能性があります。現在の起動可能ディスクの MBR が壊れているかウイルスに感染していることが確実な場合にのみ、バックアップ コピーを復元してください</p>
<p> コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。</p>		

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
電源 (Power)	OS電源管理 (OS Power Management)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行時電源管理 (Runtime Power Management) の有効 (Enable) /無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、その時点でロードされているソフトウェアがプロセッサの最大能力を必要としない場合に、特定のオペレーティング システムによりプロセッサ電圧および周波数が下がります</li> <li>アイドル状態での省電力 (Idle Power Savings) : 拡張 (Extended) /標準 (Normal) 拡張に設定すると、プロセッサがアイドル状態のときに、特定のオペレーティング システムがプロセッサの電力消費量を下げようにします</li> <li>ACPI S3のサポート (ACPI S3 Support) の有効/無効</li> <li>ACPI S3ハードディスクのリセット (ACPI S3 Hard Disk Reset) この機能を有効に設定すると、S3スリープ状態からの復帰後オペレーティング システムが有効になる前に、ハードディスク ドライブがコマンドを受け付ける準備ができていることがBIOSにより確認されます</li> <li>ACPI S3 PS2マウス ウェイク アップ (ACPI S3 PS2 Mouse Wake Up) マウスを使用したS3スリープ状態からの復帰の有効/無効を設定します</li> <li>USBデバイスによるシステムの復帰 (USB Wake on Device Insertion) (一部のモデルのみ) この設定を有効に設定すると、USBデバイスを差し込むことでシステムがスタンバイから復帰します</li> </ul>
	ハードウェア パワー マネージメント (Hardware Power Management)	SATAの電源管理機能により、SATAバスまたはシリアルATAパワー マネージメント (またはその両方) の有効 (Enable) /無効 (Disable) を設定します
	温度 (Thermal)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファン休止モード (Fan idle mode) この棒グラフでファンの最低速度を制御します</li> </ul>  この機能では、ファンの最低速度のみ変更できません。ファン自体は自動的に制御されます
 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。		

---

**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**


---


メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced)  *上級ユーザのみ	電源投入時オプション (Power-On Options)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>POSTモード (POST Mode) の設定 : クイック ブート (QuickBoot)、フル ブート (FullBoot)、または1~30日毎にフルブート (FullBoot Every 1-30 Days)</li> <li>POSTメッセージ (POST Messages) の有効 (Enable) /無効 (Disable)</li> <li><b>[F9]</b>プロンプト (F9 Prompt) の有効/無効または表示 (Displayed) /非表示 (Hidden) この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F9=Boot Menu]と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、<b>[F9]</b>キーを押すと [Shortcut Boot [Order] Menu]画面が表示されます。詳しくは、[ストレージ] (Storage) →[起動順序] (Boot Order) の順に選択してください</li> <li><b>[F10]</b>プロンプト (F10 Prompt) の有効/無効または表示/非表示 この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F10=Setup]と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、<b>[F10]</b>キーを押すと [Setup]画面が表示されます</li> <li><b>[F12]</b>プロンプト (F12 Prompt) の有効/無効または表示/非表示 この機能を有効に設定すると、POST実行中に [F12=Network Service Boot]と表示されます。この機能を無効に設定してテキストが非表示になっても、<b>[F12]</b>キーを押すとネットワークからのブートがシステムに強制されます</li> </ul>




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)


メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	<p>次の項目を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オプションROMプロンプト (Option ROM Prompt) の有効 (Enable) / 無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、オプションROMをロードする前に画面にメッセージが表示されます (この機能は一部のモデルでのみサポートされます)</li> <li>リモート ウェイクアップ ブート ソース (Remote Wakeup Boot Source) のリモート サーバ (Remote Server) / ローカル ハードディスク ドライブ (Local Hard Drive)</li> <li>電源コードの抜き差し後の電源状態 (After Power Loss) のオン (On) / オフ (Off) / 以前の状態への復帰 (Previous State) 次のように機能します <ul style="list-style-type: none"> <li>オフ: コンピュータに電力が供給されても、コンピュータの電源は切れたままになります</li> <li>オン: コンピュータに電力が供給されると、すぐにコンピュータの電源がオンになります コンピュータがスイッチ付き電源タップに接続されている場合は、電源タップのスイッチを使用してコンピュータの電源を入れることができます</li> <li>以前の状態への復帰: コンピュータが電源から切断されたときに電源がオンになっていた場合、電源に接続しなおすとすぐにコンピュータの電源がオンになります</li> </ul> </li> </ul> <p> 電源タップのスイッチを使ってコンピュータの電源を切る場合は、サスペンド/スリープ機能やリモート マネジメント機能を使用できません</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>POST 遅延時間 (POST Delay): なし、5秒、10秒、15秒、または20秒 (None, 5, 10 15, or 20 seconds) この機能を有効に設定すると、ユーザが指定した遅延時間がPOSTプロセスに追加されます。この遅延時間は、POSTが完了した時点でブートの準備ができていないほどPCIカード上のハードディスクの回転が遅い場合に必要となります。また、POST遅延時間を設定すると、コンピュータ (F10) セットアップを開くために[F10]キーを選択できる時間が長くなります</li> </ul>

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。





## コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	電源投入時オプション (Power-On Options) (続き)	次の項目を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>I/O APICモード (I/O APIC Mode) の有効 (Enable) /無効 (Disable) この機能を有効に設定すると、Microsoft Windowsオペレーティング システムの動作が最適化されます。Microsoft以外の一部のオペレーティング システムを正常に動作させるためには、この機能を無効に設定する必要があります</li> <li>ハイパースレッディング (Hyper-Threading) の有効/無効</li> <li>閲覧モードの設定 (Set Up Browse Mode) の有効/無効 (一部のモデルのみ) この機能を有効にすると、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティを表示できますが、設定を変更するにはセットアップ パスワードの入力が必要です</li> <li>CPUIDの最大値を3に制限 (Limit CPUID Maximum Value to 3) マイクロプロセッサから通知されるCPUID関数の数を制限します。Windows NT<sup>®</sup>を起動するときはこの機能を有効に設定します</li> <li>ACPI/USB バッファをメモリ先頭番地へ (ACPI/USB Buffer @ Top of Memory) の有効/無効 この機能を有効に設定すると、USBメモリ バッファがメモリの先頭に配置されます。この機能の利点は、1 MB未満の一定量のメモリがオプションROMによって解放されて使用できる点です。不利な点は、USBバッファがメモリの先頭にありシステムのRAMが64 MB以下の場合、一般的なメモリ マネージャであるHIMEM.SYSが正常に動作しない点です</li> </ul>
	メモリ テストの実行 (Execute Memory Test) (一部のモデルのみ)	コンピュータを再起動して、POSTメモリ テストを実行します
	BIOS電源投入 (BIOS Power-On)	オンボード システム デバイス (ディスクレット コントローラ (Diskette Controller)、シリアル ポート (Serial Port)、パラレル ポート (Parallel Port) など) のリソースを設定したり無効に設定したりします

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	オンボード デバイス (Onboard Devices)	オンボード システム デバイス (ディスクレット コントローラ (Diskette Controller)、シリアル ポート (Serial Port)、パラレル ポート (Parallel Port) など) のリソースを設定したり無効に設定したりします
	PCIデバイス (PCI Devices)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インストールされているPCIデバイスの一覧とIRQの設定を表示します</li> <li>各デバイスの IRQ 設定を変更したり、デバイスを無効 (Disable) に設定したりできます これらの設定は、ACPI対応のオペレーティング システムには対応していません</li> </ul>
	PCI VGAコンフィグレーション (PCI VGA Configuration)	<p>PCIビデオ アダプタがシステムにインストールされている場合にのみ表示されます。VGAコントローラのブートまたはプライマリVGAコントローラの設定を行います</p> <p> この項目を表示するには、[カスタム]→[デバイス オプション] (Device Options) の順に選択して内蔵ビデオを有効に設定し、[変更を保存して終了] (Save Changes and Exit) を選択する必要があります</p>
	バス オプション (Bus Options)	<p>一部のモデルで、次の項目の有効 (Enable) / 無効を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PCI SERR#生成 (PCI SERR# Generation)</li> <li>PCI VGAパレット スヌーピング (PCI VGA Palette Snooping) PCIコンフィギュレーション スペースにVGAパレット スヌーピング ビットを設定します。2つ以上のグラフィックス コントローラがインストールされている場合にのみ必要です</li> </ul>

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

---

**コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)**


---



メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	デバイス オプション (Device Options)	次の項目を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>• プリンタ モード (Printer Mode) の双方向 (Bi-Directional)、EPP&amp;+ECP (EPP + ECP)、出力専用 (Output Only)</li> <li>• 電源投入時Num Lock状態 ( Num Lock state at Power-On) のオン (On) /オフ (Off)</li> <li>• S5ウェイク オンLANの有効 (Enable) /無効 (Disable)               <ul style="list-style-type: none"> <li>• オフ状態 (S5) のときにWake on LANを無効にするには、左右の矢印キーを使用して[カスタム] (Advanced) →[デバイス オプション]メニューの順に選択し、S5 Wake on LAN機能を無効に設定します。この設定では、S5のときのコンピュータの消費電力を最小にすることができます。サスペンドやハイバネーションからのWake on LANの実行には影響しませんが、ネットワーク経由でS5から復帰することはできません。コンピュータの電源がオンの時には、ネットワーク接続の操作には影響しません</li> <li>• ネットワーク接続が必要でない場合は、ネットワーク コントローラ (NIC) を完全に無効にするために左右の矢印キーを使用して[セキュリティ] (Security) →[デバイス セキュリティ] (Device Security) メニューの順に選択します。ネットワーク コントローラのオプションを [Device Hidden] に設定します。これで、ネットワーク コントローラがオペレーティング システムから使用できなくなり、S5のときのコンピュータの消費電力を抑えることができます</li> </ul> </li> <li>• プロセッサ キャッシュ (Processor Cache) の有効/無効</li> </ul>




コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

---

コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティ (続き)

メニュー	項目	説明
カスタム* (Advanced) (続き) *上級ユーザのみ	デバイス オプション (Device Options) (続き)	次の項目を設定します <ul style="list-style-type: none"> <li>各スリープ状態時のLEDの点滅速度 (Unique Sleep State Blink Rates)                              ランプの点滅パターンによってスリープ状態が識別できる機能の有効/無効を設定します                              1回点滅した後に2秒間休止=S1                              2回点滅した後に2秒間休止=S2                              3回点滅した後に2秒間休止=S3</li> <li>内蔵ビデオ (Integrated Video) の有効 (Enable) / 無効 (Disable)                              内蔵ビデオとPCI Upソリューション ビデオを同時に使用できるように設定します (一部のモデルのみ)                             <ul style="list-style-type: none"> <li> 内蔵ビデオを有効に設定して変更を保存した後は、[カスタム]メニューの下に新しいメニュー項目が表示され、プライマリVGAコントローラのビデオ デバイスを選択できるようになります</li> <li> PCIまたはPCI Expressビデオ カードを挿入すると、内蔵ビデオが自動的に無効になります。PCI Expressビデオがオンのときは、内蔵ビデオを無効に設定しておく必要があります</li> </ul> </li> <li>モニタ トラッキング (Monitor Tracking) の有効/無効                              モニタのアセット情報をBIOSに保存します</li> <li>NIC PXEオプションROMのダウンロード (NIC PXE Option ROM Download) の有効/無効                              BIOSに含まれている内蔵NICオプションROMにより、コンピュータの起動時にネットワーク経由でPXEサーバに接続できます。この機能は通常、共通イメージをハードディスクドライブにダウンロードするときに使用します。NICオプションROMはDOS Compatibility Hole (DCH) 領域と呼ばれる1 MB未満のメモリ領域に格納されます。メモリ領域には制限があります。この[F10]オプションを使用して内蔵NICオプションROMのダウンロードを無効に設定できるため、追加のPCIカード用にオプションROM領域が必要な場合、提供するDCH領域を増やすことができます。デフォルトではNICオプションROMが有効に設定されています</li> </ul>

 コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティでサポートされる機能は、お使いのハードウェアの構成によって異なる場合があります。

## 構成の設定値の回復

この方法で復元する場合、**[システム構成の復元]**を実行する前に、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの**[リムーバブル メディアに保存]**コマンドを実行する必要があります。コンピュータ セットアップ オプションの表にある、[4 ページの「リムーバブル メディアに保存 \(Save to Removable Media\)」](#)を参照してください。



コンピュータの構成を変更したら、その構成をディスク、USBメモリ、またはディスクと同等のデバイス (ディスク ドライブをエミュレートするよう設定された記憶装置) に保存し、将来使用できるようにディスクまたはデバイスを保管しておくことをお勧めします。

構成を復元するには、構成を保存したディスク、USBメモリ、またはディスクをエミュレートするその他の記憶装置を挿入し、コンピュータ セットアップ (F10) ユーティリティの**[リムーバブル メディアから復元]**コマンドを実行します。コンピュータ セットアップ オプションの表にある、[4 ページの「リムーバブル メディアから復元 \(Restore from Removable Media\)」](#)を参照してください。